

現代美術のアーカイヴに関する研究 アーカイヴ機関の理論研究と活動に着目して

A Study on the archive of contemporary art Focusing on theoretical research and activities of archiving institutions

○酒井七瀬¹, 堀切梨奈子², 佐藤慎也²
Nanase Sakai¹, Rinako Horikiri², Shinya Satoh²

Contemporary art continues to expand. There is an urgent need for new archiving methods to maintain the identity of contemporary art works across disciplines. In this study, we will look at the actual activities of domestic institutions that archive contemporary art.

1. 研究背景と目的

拡張し続ける現代美術において、新たなアーカイヴ方法が緊急に求められている。現代美術をめぐるアーカイヴは、様々な論点が混在している。既製品が用いられ、素材が代替不可能に陥るメディア・アート、生物などの「非物質」が用いられ、収蔵庫に保存できないパフォーマンス・アート、明確な作者が不在の中で変容し続けるワーク・イン・プログレスなど、従来の技法による分野には当てはめられず、複数の分野を横断する。これらを後世に継承するためには、物理的同一性の担保を重視した従来のアーカイヴ方法を再考する必要がある。本研究では、上記のような現代美術に対して、物理的・視覚的・概念的な同一性を保つための試みを行っている機関を取り上げ、その活動を調査することで、現代美術に求められるアーカイヴ方法を考察するとともに、今後の美術館やアートセンターに求められる役割や制度を考察する一助となることを目指す。

2. 既往研究と本研究の立ち位置

平は、文化財の修復理念を現代美術におけるアーカイヴへと拡張する提案を行っている^[1]。匂坂は、諸資料がアーカイヴとして収集されることで創造性を生むことを美学の観点から指摘している^[註1]。その他、美術雑誌においても現代美術のアーカイヴを考察する特集が組まれている^[註2]。しかし、いずれも現代美術におけるアーカイヴの諸問題を断片的に紹介しているに過ぎず、統一した視点や議論の体系化はなされていない。本研究では、現代美術のアーカイヴに関する研究を行う国内機関を研究対象として扱い、議論と活動を横断した調査を行う点に、既往研究との相違がある。

3. 現代美術における二次資料の扱い

博物館学において、博物館資料とは、博物館で研究が行われた資料のことを指す。収集された素資料は、異なる複数の視座から分野横断的な研究が行われることで初めて博物館資料となる。研究過程で発生した調査記録は、保存された博物館資料（一次資料）に対して二次資料と呼ばれ、博物館資料の価値を担保する重要な資料である。インスタレーションやパフォーマンスといった定形を維持できない現代美術作品では、作家による指示書や、以前の展覧会の記録写真などを残すことで、展示時の作品との同一性を担保している。通常では二次資料に該当するこれらの資料は、現代美術においては作品の核を成す重要資料であり、たとえ展示物でなくとも一次資料と同等に管理される場合が多く存在する。

4. 研究対象と方法

現代美術における新たなアーカイヴ手法を考察する機関は複数あるが、本研究では、慶応義塾大学アート・センター（以下、「慶ア」）と京都市立芸術大学芸術資源研究センター（以下、「芸資研」）の2つの機関を取り上げ、比較する。方法としては、両機関の研究紀要を参照し、その活動実態を調査する。

5. 対象機関概要

慶アは1993年、芸資研は2014年に発足しており、芸術大学の機関である芸資研よりも、総合大学機関である慶アのほうが活動期間は長期に渡る。両機関の設立趣旨を比較すると、慶アでは「総合大学の特徴を活かした領域横断性」を強みとし、「文化環境の創造」、「創造的な人格の形成」、「未来に向けた芸術理念の構築」など、幅広く文化を対象とした目的を持つ。芸資研で

1：日大理工・院（前）・建築、2：日大理工・教員・建築

は、「芸術大学」を「ひとつの巨大なアーカイヴ」と捉え、「これからの芸術創造のための資源となりうるものを集めた『創造のためのアーカイヴ』を育むことを目的としており、慶アと比較すると芸術へと対象・目的が絞られている。研究事業について比較を行う(表1)。慶アでは、主に議論や研究を行う「研究会」、「プロジェクト」、大学所蔵作品の保存修復を行う「所蔵作品の調査研究」の3つに分類される。芸資研では、アーカイヴ概念自体を研究対象とする「基礎研究」、一人もしくは数人で専門性の高い研究を行う「重点研究」の2つに分類されている。本研究では従来の保存修復論への直結を避けるため、慶アの「収蔵作品の調査研究」以外の研究事業を対象として扱う。

表1.各機関事業区分

| 機関名(設立年) | 慶ア(1993) | 芸資研(2014) | |
|------------|----------------------------------|-----------------|------------------------|
| 事業区分(n=件数) | 研究会/プロジェクト(n=11) | 基礎研究 | 重点研究(n=18) |
| 説明 | 外部の専門家の協力を仰ぎながら、特定のテーマについて調査を行う。 | センター活動の基礎となる研究。 | リーダー中心、少人数の研究チームにより実施。 |

6. 対象機関調査

6-1. アーカイヴの理論研究

両機関で行われたアーカイヴ理論に関する研究を調査すると、その内容によって、アーカイヴに関連する作品・活動の事例紹介する「関連紹介」、アーカイヴ事業の事例紹介を行う「事例紹介」、新たなアーカイヴの概念を提唱する「概念」など、5種に分類された(表2)。「概念」に該当する慶アの事業「ジェネティック・エンジン」では、制作過程のアーカイヴが新規の作品制作につながることを提唱しており、これは、芸資研の『創造性のアーカイヴ』に通ずる理念である。

6-2. 理論研究以外の研究活動

両機関で行われている理論研究以外の研究活動を調査すると、研究対象は、大学が保管する学生の提出課題などを対象とする「大学」、特定の作家の関連資料

を対象とする「作家」、過去に制作・実施された作品や展覧会を対象とする「作品 / 展覧会」など、8種に分類された。また研究活動の活動種類は、対象の関連資料を収集する「資料収集」、対象に関する討論を研究会内で行う「議論」、外部に開いて行う「シンポジウム」など、11種に分類された(表3)。1事業に対し、複数の活動種類の実施が多い(表4)。2種が最も多く、次いで4種、1種が多い。4種の事業内容は、「作品 / 展覧会」を対象に再現・再制作を行う事業が多い。

6-3. 研究成果の公開方法

研究成果の公開方法は、研究紀要を除くと6種に分類された(表2)。展覧会での発表が多いが、文化を対象とした目的を掲げる慶アでは、同大学の学生を対象とした「講演会」が多く、機関の特徴といえる。

7. 結

現代美術の分野では、アーカイヴに対して次の作品制作につながる『創造性』を求めることが分かった。活動内容に関して系統化の可能性を見出した一方、現代美術のアーカイヴに関する議論の全体像をより明確化するためには、詳細な活動内容の分析が求められる。

【註釈】

[1] 匂坂智昭:「複雑な類似の網」を作り上げる感性化アーカイヴ, 美学, vol.65, No.2, pp.144-146, 2014
 [2] 美術手帖 特集 アーカイヴの創造性, 美術出版社, 2021

【参考文献】

[1] 加藤有次, 鷹野光行, 西源二郎, 山田英徳, 米田耕司: 博物館資料論, 雄山閣出版, 1999
 [2] 平論一郎: 美術と文化財の遺伝子—保存修復論再考, 社会連携センターbulletin 2, pp.20-46, 2015.1
 [3] COMPOST, 京都市立芸術大学芸術資源研究センター, vol.2, 2021.3
 [4] 内藤正人, 森山緑, 久保仁志, 石本華江, Shinsuke NIIKURA, 市川佳世子, 芹澤なみき: 年報/研究紀要27 2019/2020, 慶應義塾大学アート・センター, 2020.12

表2.理論内容・研究対象・公開方法の分類

| アーカイヴの理論研究 | | | 理論研究以外の研究活動 | | | | | |
|------------|-------|-------|-------------|-------|-------|-----------|-------|-------|
| 理論の内容による分類 | 慶ア(件) | 芸資(件) | 研究対象の種類 | 慶ア(件) | 芸資(件) | 公開方法の種類 | 慶ア(件) | 芸資(件) |
| a: 関連紹介 | 1 | 13 | あ: 関係者 | 0 | 4 | ア: 展覧会 | 5 | 6 |
| | | | い: 音楽/身体 | 2 | 2 | | | |
| b: 事例紹介 | 0 | 12 | う: 大学 | 0 | 3 | イ: データベース | 4 | 5 |
| | | | え: 技法 | 0 | 2 | | | |
| c: 概念 | 3 | 9 | お: 作家 | 2 | 3 | ウ: 刊行物 | 7 | 3 |
| | | | か: 作品/展覧会 | 3 | 2 | | | |
| d: 方法論 | 2 | 4 | き: 感覚/概念 | 1 | 2 | エ: 演奏/発表 | 1 | 3 |
| e: 講演 | 0 | 2 | く: 教育 | 3 | 0 | | | |
| | | | | | | | | カ: 制作 |

表3.理論研究以外の研究活動の活動種類の分類

| | | | |
|------------|-----------|------------|--------|
| 1. アーカイビング | 4. 資料収集 | 7. メンテナンス | 10. 外部 |
| 2. インタビュー | 5. シンポジウム | 8. ワークショップ | 11. 鑑賞 |
| 3. 議論 | 6. デジタル化 | 9. 演奏 | |

表4.1事業あたりの活動種類数

| 機関名 | 1事業あたりの活動種類数(種) | 該当件数(m=件) | m/n |
|-------------|-----------------|-----------|------|
| 慶ア n=11 | 4 | 2 | 0.18 |
| | 3 | 1 | 0.09 |
| | 2 | 6 | 0.54 |
| | 1 | 2 | 0.18 |
| 芸資研 n=18 | 4 | 3 | 0.18 |
| | 3 | 1 | 0.09 |
| | 2 | 9 | 0.54 |
| | 1 | 5 | 0.18 |